

第1回秋田市上北手地区公共交通研究会議事要旨

開催の日時	平成21年9月1日(火)午後6時30分～午後8時
開催の場所	上北手地域センター
委員の定数	15名
出席委員	14名
議事	(1)秋田市のバス交通の現状と不採算路線での取組について (2)上北手線・中北手線の現状と代替交通について
事務局	開会の言葉 事務局挨拶 秋田市上北手地区公共交通研究会設置規約の説明 委員紹介 会長選出 上北手地区振興会会長を会長として選出した。
会長	挨拶 上北手地区民生児童委員協議会会長を職務代理者として指名する。 議事に入る。事務局より説明願う。
事務局	事務局が、バス交通の現状や不採算路線の取組、上北手線・中北手線の現状や代替交通について説明。 秋田中央交通株式会社が、廃止の意向を示すに至った経緯や背景について説明。
会長	代替交通に関する本格的な協議は次回からと考えている。今日は、主に資料について精査してほしい。
委員	マイカー時代で利用者が減少し、収益事業としては難しいことは理解するが、行政は市民に不便をかけないようにする必要があると思う。市内のバス路線で黒字路線はどこか。また、赤字路線についての市の基本的な方向付けを聞かせてほしい。
事務局	新屋方面の各路線や桜ガ丘線等は黒字となっている。赤字路線等への対

		<p>応については、「公共交通政策ビジョン」に記載のとおり、関係者が役割分担していくが、行政は郊外部について地域住民の移動手段の確保に責任を持つこととしている。</p>
委 員		<p>市民サービスセンターの場所を選定する際、各地のバスの利便性を調べたところ、上北手地区はバスが60本と非常に利便が良いという結果であった。今回の代替交通導入による影響はどうか。</p>
事 務 局		<p>60本の中には、上北手線も含まれており、廃止になれば1日8～10本は減便となる。</p>
委 員		<p>日赤まではこれだけの本数来ているのだから、利用者が少なくなった訳ではないということなのか。</p>
事 務 局		<p>日赤から先の利用者、費用の問題であると思われる。</p>
委 員		<p>代替交通について、市の基本的な考えを具体的に聞かせてほしい。</p>
事 務 局		<p>代替交通についての協議は、資料2の3ページの表を埋めていく事になる。先に導入している西部や北部と同様に結節点での乗り換えを考えてほしい。こちらからの提案としては、上北手線が日赤病院、中北手線が大平台3丁目がポイントになるのではないかと考えている。次回の研究会に向けて、より具体的な案を提示するようにしたい。</p>
会 長		<p>マイタウン・バス西部線の運行形態や本数についてお知らせ願いたい。</p>
事 務 局		<p>資料1の6ページに概要が載っている。豊岩・下浜・浜田の3路線で平均すると1日約10往復程度運行している。新屋案内所が乗り継ぎ箇所となっている。</p>
委 員		<p>上北手線は、秋田駅西口から荒巻を通ってくるが、西口から日赤病院までの区間も廃止になるのか。例えば、東口から日赤病院を通過して古野まで行く路線等との比較は行ったのか。</p>
秋田中央交通(株)		<p>基本的に起点秋田駅西口から終点古野まで廃止する。牛島東7丁目までは他の路線が走っているし、日赤病院から東口までは30分に1本程度運行している。東口発と西口発の比較は行っていないが、牛島から有楽町を通過して西口まで行ってほしいという希望がどれくらいあるのか、市経由でもいいのでニーズを伝えてほしい。中心部については当社の責任でやることにしているの、今まで通りの本数は無理にしても、他の路線</p>

		との絡みを見ながら検討しなければならないと考えている。
委 員		日赤病院までは今後も来ていただけるとして、そこから終点の古野までは、わずか数分。新たな代替交通を導入するのと、わずかな時間とガソリンで足を伸ばして運行して貰うのと、コストを比較する必要があるのではないか。
秋田中央交通(株)		バスの運行については、法律によって縛られる部分があるので、例えば日赤病院まではバス事業者が運行し、同じバスで、そこから先は市が事業主体となるというような方法が可能かどうかは、国に確認しなくてはならない。
会 長		次回までに可能かどうか確認してほしい。
委 員		秋田駅西口から日赤病院までは、上北手線以外には1日何本あるのか。西口から日赤までの路線と古野までの代替交通の接続を、何本かは考慮して貰いたい。
事 務 局		日赤病院で秋田駅まで行く路線と接続することは、当然考慮しなければならないと考えている。ただ、日赤病院から秋田駅西口まで行く路線は上北手線だけと思われる。
委 員		赤十字病院から西口行きのバスで、城南中学校まで通う生徒は乗り換え無しだったのが、乗り換えになって遅れるようになっては困る。また、牛島や有楽町の個人病院に通うのに利用している高齢者もいる。やはり西口から病院までの路線が廃止になっては困る。
秋田中央交通(株)		そういった利用者の実状を聞かせていただきたい。今の本数をそのままというのは無理でも、必要な本数が何本なのかという事。中学校の通学についてはどういう実状なのか。
委 員		冬期間や雨天時など自転車通学が出来ない時、何人が利用している。山手台からは、遊学舎前から乗っているようだ。
委 員		古野の高校生が、毎日通学のために秋田駅まで利用している。
秋田中央交通(株)		全体のバランスを見ながら検討すべき事で約束は出来ないが、西口から病院までのバスが1日に何本かは必要だと理解した。ただ、県の補助の条件に該当するかしないかなど、総合的な判断が必要。どういう需要があるのかを踏まえて、次回以降協議してほしい。

委員	先行して運行している西部と北部の採算の状況はどうか。
事務局	採算はとれず、厳しい状況である。県の補助制度があるが、それでも採算はとれないし、補助制度の見直しに合わせて運行の見直しも考えなければならないような状況である。
委員	赤字だからという理由で路線バスがコミュニティバスになり、コミュニティバスも赤字だからと無くなってしまふのでは元も子もない。
事務局	赤字だからという理由で代替交通を廃止することはない。将来的には地元の団体等が事業主体となるような手法も考えている。
委員	今回示されているのは、JA倉庫から古野までの利用者数だが、西口から日赤までの利用者や東口から日赤までの利用状況はあるのか。そういったものを比較しないと、上北手線全体が必要ないとは言えないのではないか。西口から日赤までも廃止になるとすれば、どうしても不便になるので、慎重に検討してほしい。
事務局	路線の廃止については、基本的に西口から古野までの予定である。この中で、郊外部については市が代替交通を検討するもの。日赤と西口の間については、どの時間帯にどれくらいの本数が必要なのかを教えていただければ、約束は出来ないが、バス事業者さんに対応を検討して貰うという事になる。
委員	代替交通については、私どもは未経験であり、先行している北部線などを実際に現地で見える機会を設けてはどうか。
会長	代替交通の見学については、事務局と相談して決めたい。見学の事例はあるか。
事務局	見学は可能。北部は予約式で車両もジャンボタクシーなので、それなりに参考になるかもしれない。
会長	スケジュールの問題もあるので、実現できるようであれば行きたい。事務局は実施の可能性について検討しておいていただきたい。
会長	今回の研究会は、廃止の予定や状況について委員の皆さんに理解いただいたと思う。次回からは、代替交通の形態等について本格的な協議に入る。委員の皆さんにおかれては、次回の協議に備え、中身の精査や検討

		に努めてほしい。
委 員	員	今後の予定をお知らせ願いたい。
事 務 局	局	第2回の研究会を10月第2週、第3回の研究会を10月最終週か11月第1週を考えている。この3回の中で代替交通について方向付けしたい。その後は、予算措置や法定協議会、事業者選定等を経て、4月1日の運行を予定している。
委 員	員	デマンドという用語の意味をお知らせ願いたい。
事 務 局	局	予約型の事であり、利用者は事前に電話等で予約する必要がある。
会 長	長	他に無ければ、これで全ての議事を終了する。

- 研究会終了 -